# 明日に向かってともに創る ⑫⑴

大船渡市長　戸田公明

## 新白石トンネル事業と国道107号の構想路線化

11年余り前の市長就任時には、釜石市と内陸を結ぶ高規格幹線道路「釜石道路」の仙人峠トンネルなどの工事が進められていました。

一方で、県内最大取扱高の大船渡港を有する本市と内陸とを結ぶ国道107号は「大船渡・遠野連絡道路」としての位置付けでした。このような状況で、交通の難所である白石峠の改良整備は誰もが思う課題でしたが、内陸を結ぶ新たな道路をどこにすべきかについては気仙地域としての共通認識が集約されておらず、具体的な対県要望もされていませんでした。

このような中、市議会からの提言なども踏まえ、平成28年に市と大船渡港の更なる発展、内陸との交通の利便性向上などを目指し、市と内陸を結ぶ道路をどのルートに設定するのが相応しいか検討することとしました。

「国道107号ルート（権現堂交差点～宮守IC）」、「権現堂交差点～龍観洞ICルート」、「権現堂交差点～遠野住田ICルート」の3案について検討した結果、宮守ICに通ずる国道107号ルートが最も経済的で合理的であったことから、これに的を絞り、改良整備の対県要望を行うこととしました。

以来、近隣3市1町と域内の商工・観光・物流・港湾・医療などの21関係団体で構成する「物流等の円滑化と活性化を図る道路ネットワーク検討会」を立ち上げ、関係団体とともに毎年要望を行ってまいりました。

この流れの中、令和元年度、岩手県は国道107号を7工区に分けて改良整備を検討することを決めました。

2年間に及ぶ検討結果では、白石峠区間が最も優先度が高いとされ、新白石トンネルの事業化の検討が始まり、令和3年度に、国道107号について次の2つの決定をしました。

**●新白石峠トンネル整備の正式事業化**

**●国道107号を広域道路ネットワーク計画上、構想路線「（仮称）大船渡内陸道路」に格上げ**

※構想路線とは…「高規格道路としての役割が期待されるものの、起終点が決まっていないなど、個別路線の調査に着手していない道路」

これを受け、令和4年2月10日、岩手県と共同して財務大臣、国交省政務官・道路局長に新白石トンネル事業化補助金について要望したところ、後日、採択された旨連絡がありました。岩手県は今年度から同トンネルの調査事業に着手し、引き続き、設計、環境アセスメント、土地買収、トンネル工事などに進む予定であり、完成までには約10年かかると伺っています。

このような動きを受け今後は、要望団体名称を「○○期成同盟会」の形に改め新白石トンネルの早期実現と国道107号の地域高規格道路化に向けた要望活動を、強化してまいります。永年の地域の思いが早期に実現しますよう皆さんのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 自然災害から身を守りましょう

## 最大クラスの津波浸水想定区域を公表しています

岩手県では、悪条件下で発生した津波の浸水想定区域を公表しました。このような場合、過去に発生した津波の浸水範囲を大きく上回る場合があります。

津波浸水想定区域

## 綾里川洪水浸水想定区域を公表しています

岩手県では、平成27年５月の水防法改正に伴い、想定される最大規模の降雨があった場合の、綾里川の浸水区域図を公表しました。

綾里川洪水想定区域

## 自分の命を自分で守るために

災害から身を守るには、自分の身の回りで起こる可能性のある災害を、日ごろから想定することが大切です。今回公表された浸水想定図などを参考に、避難経路や避難場所なども確認し、迅速な避難行動につなげましょう。

▷**問い合わせ先**＝防災管理室（☎内線251）

VEGETABLE OIL INK
「広報大船渡」は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙と植物油インキを使用しています。